様式第１号（第１０条関係）

２０２４年度業務実績報告書

提出日　2025 年 1 月 15 日

１．職名・氏名　准教授・畠　中　　耕

２．学位　学位 社会福祉学修士、専門分野　社会福祉史、授与機関　立正大学、授与年 2002 年

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 社会福祉学概論Ⅰ（２単位）　１年次前期 ②　内容・ねらい 社会福祉の理論と政策について学ぶとともに、現代社会福祉が抱える問題点について理解を深めることが目的である。主に社会福祉の対象理解に特化し、対象から社会福祉政策や方法に接近するというアプローチを身につけることがねらいである。 ③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ②でも述べたように、社会福祉の対象理解に重点を置いた。科目の性質上、講義解説が中心となることは否めないが、事例や映像を活用し、社会福祉の対象者である市民の生活問題への視座を重視した。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 社会福祉発達史（２単位）　２年次前期 ②　内容・ねらい 　なぜ、社会福祉は現代社会において必要なのか？社会福祉はいつ、どこで、誰の手によって、どのような社会的状況の中で生まれてきたのか？イギリス・アメリカ・日本の歴史学習を通して、社会福祉の根拠を理解することがねらいである。 ③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 歴史とは「現在と過去との対話」である（E.H.カー）。現代の社会福祉を理解するためには、歴史を検証する作業が必要不可欠である。一方的な解説講義にとどまることなく、受講生が主体的に講義に参加できる環境を意識した。具体的には事例や映像の他、受講生が主体的にプログラムを構築できる講義題材を導入した。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 ソーシャルワーク論Ⅲ（４単位）　２年次前期 ②　内容・ねらい 社会福祉の相談援助とは何かを理解することが目的である。講義はオムニバス方式で実施し、社会福祉の相談援助の主要な実践モデルグループワークの意義と目的および原則、相談援助に記録ついて理解することがねらいである。 ③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 一方的な解説講義にとどまることなく、受講生が主体的に講義に参加できる環境を意識した。具体的には事例や映像を活用したグループワークの他、受講生が主体的にプログラムを構築できる講義題材を導入した。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
社会福祉学概論Ⅱ（２単位）　１年次後期

②　内容・ねらい
「社会福祉学概論Ⅰ」に引き続き、現代社会福祉が抱える問題点について理解を深めることが目的である。具体的には社会福祉の価値・社会福祉の対象・社会福祉の方法についての理解を深めることがねらいである。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
とくに重要視したのが「社会福祉の対象」理解である。科目の性質上、講義解説が中心となることは否めないが、事例や映像を活用し、社会福祉の対象者である市民の生活問題への視座を重視した。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（1 単位）　2 年次後期（オムニバス）

②　内容・ねらい
本科目は「ソーシャルワーク実習」の事前学習として位置付けられる。講義（実践現場の実習指導者等の講義を含む）を中心に、ソーシャルワークの基礎、及び実習先の理解を深めていく。また、実際に県内にある複数の社会福祉機関施設等の見学実習を行う。担当教員の指導助言のもと、各自「ソーシャルワーク実習」での実習先を決定することが目的である。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
2024 年度に担当したのが講義「専門職の価値と倫理」、「障害者分野」（ライフかすみ）及び「児童福祉分野」（ファミール芦原）の見学実習の引率である。講義においては事例及びグループワークの活用、引率における事後学習でも体験した内容の考察の視点についてグループワークを交えながら展開した。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（1 単位）　3 年次通年

②　内容・ねらい
本科目は「ソーシャルワーク実習」の事前学習、及び事後学習として位置付けられる。「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」に引き続き、各自実習先の理解を深め、実習計画書を作成する。2023 年度より「ソーシャルワーク実習」は福井県内の機関施設において実施する。カリキュラム改訂にともない、本年度から２ヶ所の実習となった。実習後の事後学習では、実習中の体験を振り返り、言語化することでソーシャルワークにおける実践と理論の連結について考察することが目的である。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
2024 年度に担当した学生は５名である。実習計画書作成にあたっては、事例を活用し、臨場感をもたせることで、実習施設及び機関の機能の実際を体得し、具体的な計画案の作成に寄与できるように心がけた。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
ソーシャルワーク実習（4 単位）　3 年次通年

②　内容・ねらい
「相談援助実習・実習指導ガイドライン」に基づき、社会福祉士として必要な知識・技術・価値、及び関連知識の理解を深め、社会福祉専門職の総合的な実践力、力量を身につける。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
実習中もメール等を活用することで実習生の疑問や課題に即座に対応できるように心がけた。またスーパーバイザーとも実習開始前から実習プログラムについて打ち合わせを行い、密度の濃い実習プログラムを立案していただき、実習教育効果を高めることができた

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
社会福祉学特論（2 単位）　修士課程 1 年次前期

②　内容・ねらい
社会福祉とは何か？この問いに対して、これまで多くの研究者が様々な定義を提供してきた。講義では戦後日本で展開された代表的な理論（論争）を取り上げ、受講生間で議論を深めることが目的である。学んだ理論や概念を、研究のための「道具」として活用する力を身に付けることが本講義の目標である。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
講義では岡村重夫及び孝橋正一の書籍及び論文を題材とし、受講生が事前に担当章のレジュメを作成し、レジュメをもとに議論を展開した。修士論文執筆にむけての研究方法論の意義についてもあわせて書籍及び論文から学べるように配慮した。

４．研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

【　本】

②学術論文（査読あり）
・畠中耕「静岡県社会事業行政の成立と大日本報徳社」『福井県立大学論集』第 61 号
・畠中耕「静岡県における農村隣保事業と報徳思想」『社会事業史研究』第 64 号
・畠中耕「静岡県における指定教化町村と常会―戦時下を中心として」『人間福祉学研究』第 17 巻 1 号

【３本】

③その他論文（査読なし）

【　本】

④　学会発表等

【　件】

⑤　その他の公表実績

【　本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績
学外
(3)特許等取得
(4)学会活動等
・日本ソーシャルワーク教育学校連盟「国家試験合格支援委員会」委員（2017～） ・日本社会福祉学会機関誌『社会福祉学』査読委員（2018～）

５．地域・社会貢献活動

・福井県介護人材確保対策協議会委員（2023～） ・福井県社会福祉協議会福祉サービス第三者評価決定委員会委員（2023～） ・社会福祉法人ふくい福祉事業団評議員（2023～） ・社会福祉法人ふくい福祉事業団令和６年度中堅職員研修講師（2024 年 10 月 30 日）

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
・国家試験支援委員会委員 ・学部広報ワーキング委員 ・学部選挙委員
(3)学内行事への参加
・オープンキャンパス・ワークショップ講師
(4)その他、自発的活動など